

## 熱利用方法の検討における条件等について

### 1 熱利用箇所選定に係る条件（温水熱供給）

- 施設周辺において使用可能な水量が少ないため、循環による温水供給となる。
- 温水は管路での循環となるため、管の耐圧性から標高差約70m以下への温水供給は困難。（高耐圧管使用ではコスト約2倍）
- 管路布設費用は約1億円/km程度と高コスト。また、循環のため管路延長は倍となる。

以上のことから、熱利用箇所については次の条件下が望ましい。

- ①施設周辺での利用がコスト面で有利。
- ②施設西側は標高差面から山麓線周辺まで。
- ③南北側への熱供給は可能だが供給コストを踏まえた費用対効果の検証が重要。

### 2 熱利用内容選定に係る条件

- 1での選定地域のほとんどが農振地域であり、農業以外の利用が困難。
- 施設周辺地域では使用可能な水が少ない。

以上のことから、熱利用内容については次の条件となる。

- ①農業利用の場合、施設周辺では農業用水の確保は困難。
- ②農業以外の場合、土地利用計画の変更が生じるため、住宅など民間資本での土地利用は困難。
- ③農業以外の利用で、都市計画上の用途変更策としては都市公園などの整備。
- ④1の選定地域にある既存施設への熱供給は可能  
（工業団地、県林業センター、県教育センター、県畜産試験場、市小坂田公園など）

### 3 その他検討事項

- 温水循環による熱供給は、温度、循環ポンプなど運転管理や設備メンテナンスなどの施設管理者が必要。
- 熱供給施設（管路、熱回収機器等）のイニシャルコスト及びランニングコストの負担者の選定が必要。